

令和8年度

# 「運営に関する計画」

大阪市立小松小学校

令和8年4月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題****安全・安心な教育の推進の視点**

- いじめについて：「いじめを考える日」の取り組みや、日常的な指導を通じていじめを許さない意識が定着してきた。一方、学級内でのトラブル時の言動など、引き続き指導が必要な課題も見られている。今年度も継続していじめ事案の早期発見・早期対応ができるように、「大阪市いじめ対策基本方針」に基づいた指導を行い、学校全体で児童が安心して過ごせる学校づくりを目指していく。
- 豊かな心の育成について：学校のきまりについては、時間を守れない、持ち物や身だしなみのきまりを守れないなどの課題も見られる。また、あいさつについては日常的に定着しきれていないという課題が見られる。そこで、今年度も継続してポジティブ行動支援に取り組み、小松小学校の行動目標である「こまつチャレンジ」に沿った具体的な行動について日常場面で例示し、守れている行動を積極的に称賛するポジティブフィードバックの方法を工夫し、児童の主体性を引き出す。

**未来を切り拓く学力・体力の向上の視点**

- 学力について：算数科に焦点を当て、基礎的・基本的な計算力や問題解決力の定着を図るため、朝の時間やモジュールタイムを活用し、練習問題に取り組む機会を計画的に増やす。また、外国語（英語の）の学習では、毎週木曜日を「英語の日」とし、C-NETと連携して外国語活動の充実を図る。
- 運動・体力について：反復横とびを中心とした系統的な指導により、体力向上への意識が広まってきている。しかし、活動量や意欲に個人差があるため、それぞれにあった振り返りを行い、目標をもって運動に取り組んでいく。また、授業時間内だけでなく、短時間で取り組める運動や遊びを工夫し、休み時間や学校生活の中でも体を動かす機会を意図的に確保していく。

**学びを支える教育環境の充実の視点**

- 学習者用端末の活用について：学習者用端末活用率は高く定着しており、特に低学年での習慣化や高学年での多角的な活用が進んでいる。今年度はさらなる「習慣化」と「活用場面の充実」を図っていくと共に、個人情報正しい取り扱いや、SNSの安全な使い方など情報モラル教育を計画的に実施していく。
- 働き方改革について：業務内容の精選と構造的な働き方改革として、勤務時間の短縮には個人の意識改革だけでなく、授業時数や短縮授業の再検討、学校行事自体の精選を行い、業務と生活の両立ができるゆとりのある時間や、児童と向き合う時間を確保できるよう見直しを進めていく。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- いじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、いいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84.7%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、算数科の平均正答率の対全国比を同一集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じぐらいの時刻に寝て、同じぐらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないように注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 時間外勤務時間について、月60時間以上実施する教員をゼロにする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- いじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、いいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84.7%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、算数科の平均正答率の対全国比を同一集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じぐらいの時刻に寝て、同じぐらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないように注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 時間外勤務時間について、月60時間以上実施する教員をゼロにする。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

--

(様式例2)

大阪市立小松小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○いじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を95%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、いいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84.7%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめ事案の早期発見・早期対応ができるように、毎月1回の生活支援部会を設定する。そこで、児童らの課題の共有を行うとともに、解決策について話し合いを行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>「大阪市いじめ対策基本方針」の理解・実践に関するeラーニング研修を実施し、振り返りシートにおける「大阪市いじめ対策基本方針に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を95%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめ(いのち)を考える日に放送で校長先生から話を聞くとともに、同週内に学級で一人ひとりが「いじめについて考える」時間を設け、いじめ防止の標語を作る活動や「いのちのつながり(作文)」に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校アンケートにおいて、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目において、最も肯定的な回答を85%以上とする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>小松小学校の行動目標である「こまつチャレンジ」に沿った具体的な行動について、日常場面で例示し、それが実行できた際には、具体的なポジティブフィードバック(PF)で称賛する。また、PFの方法を工夫し、児童の主体性を引き出す。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校アンケートにおいて、「自分には、いいところがありますか」の項目において、肯定的な回答を84.7%以上とする。</p>	

取組内容④【基本的な方向5 豊かな心の育成】

児童一人ひとりが活躍する場を設定し、達成感を持たせ自尊感情を高める。また、各学年で文化的・体験的な学習を実施する。

指標

・各学年が体験活動を年に2回以上計画・実施し、全校児童でも芸術活動を実施する。(各学年の社会見学、キッザニア甲子園での職業体験、外部講師を招いての出前授業、劇鑑賞、小松 HF、わくわく教室、学校たんけん、わくわくスタートなど)

年度目標の達成状況や取組結果と分析

次年度への改善点

(様式例 2)

大阪市立小松小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における、算数科の平均正答率の対全国比を同一集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.1ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「規則正しい生活(「朝食を毎日食べること」「毎日、同じぐらの時刻に寝て、同じぐらの時刻に起きること」)が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>基礎的・基本的な計算力や問題解決力の定着を図るため、朝の時間やモジュールタイム、算数の授業時間を活用し、練習問題に取り組む機会を計画的に増やす。短時間で継続的に反復練習を行うことで、学習内容の定着を図るとともに、児童が自信をもって学習に取り組めるようにする。</p>	
<p>指標</p> <p>経年調査における、算数科「数と計算」の領域において、大阪市平均を上回る。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>毎週木曜日を「英語の日」とし、英語加配教員や C-NET と連携して外国語活動の充実を図る。今年度は外国語指導巡回訪問を活用し、授業研究や校内研修を通して指導力の向上を図るとともに、児童の実態に応じた言語活動の工夫を進めていく。</p>	
<p>指標</p> <p>学校アンケートにおける「外国語(英語)の学習は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>児童の敏捷性を高めるため、体育の授業を中心に、系統的・継続的な運動機会を確保し、反復横跳びに関連する動きへの意識を高める指導を行う。また、運動遊びや学級活動などとも関連づけながら、楽しさや達成感を実感できるような取組を通して、児童の身体活動量の確保と技能の向上を図る。</p>	
<p>指標</p> <p>反復横とびの記録を1学期と3学期の2回とり、1学期より向上した児童の割合を60%以上にする。</p>	

<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】          社会科や家庭科、学級活動、給食指導などの時間に食育の指導を実践し、食育の日（毎月19日）に給食時間の月目標に関する資料を活用し、食に関する指導の時間を設ける。また、早寝・早起き・朝ごはんをはじめとした規則正しい生活の大切さについて、道徳科や学級活動、保健指導を通して繰り返し働きかけ、生活リズムを振り返る機会を設ける。</p>	
<p>小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じぐらいの時刻に寝て、同じぐらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組結果と分析      最終評価	
次年度への改善点	

(様式例2)

大阪市立小松小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないように注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○時間外勤務時間について、月60時間以上実施する教員をゼロにする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DXの推進】</p> <p>各学年で情報モラル教育を計画的に実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>情報活用能力チェックリストを活用し、 低学年では「ルールを守ってクロムブックを大切に使っている」、中学年では「課題に対して、色々な方法で情報を探すようにしている」「自分や他人の個人情報をおの人に教えないようにしている」 高学年では「課題に合わせて色々な方法で情報を探し、それを比較して活用してる」「SNSなどでメッセージや画像・動画を送る時には、誰が見るか、その内容が適切かどうかを考えるようにしている」の項目に対し、80%以上の児童ができてると回答できるようにする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たすために、業務と生活の両立ができるゆとりのある時間を設ける。また、児童と向き合う時間を確保し、教職員が健康かつ活気のある環境をめざす。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>ゆとりの日を週1回設定し、18時までには退勤する。</p>	
年度目標の達成状況や取組結果と分析 最終評価	
次年度への改善点	